

子どもたちの夢を応援したい

七海雷児



保育士

文・すとうあさえ

将来、ぼくは何をしたいのだろう

七海雷児は高校三年生。しんみような顔をして父の前に座った。

「お父さん。ぼく、将来何をしたいのかがわかるまで、大学にはいかない」

父は、雷児の目を見て、言った。

「わかった。自分の夢をさがしなさい。ただし、中途半端はだめだぞ」

父は、小さなころから、雷児がやりたいということをいつも応援してくれた。六歳で、サッカーをやりたいと言ったときもそうだ。

「やるなら、とことんやりなさい」

ゴルフのレッスンプロである父は、いつも帰りがおそい。体も疲れていたと思うのに、毎朝五時に起きて、雷児にサッカーの基本を仕こんでくれた。

雷児は、父の言うとおりに、とことんサッカーをやった。小学校の校庭で、仲間とボールを追い、走った。

「東京ストライカーズ」ではフォワードをまかされ、小学校最後の少年サッカー大会では、六得点とって勝ち進み、決勝戦で強豪チームと対戦した。大差で負けたけれど、仲間と心をあわせてがんばることは、ドキドキするく



雷児が所属していた東京ストライカーズのメンバー。写真は板橋区の少年サッカー大会で準優勝したとき。(雷児は前列右から二人目)

プロフィール
1975年生まれ。専門学校を経て、ポピンズコーポレーションに入社。同社の男性保育士第一号となる。イギリスのノーランドカレッジで、一年間の保育留学を経験。2009年現在、『ポピンズナーザリー早稲田』の施設長。社内保育士・ベビーシッター研修講師、大学非常勤講師なども兼務。

らい楽しかった。

春、アルバイトをしながら将来を考える日々が始まった。そんなある日のこと、東京ストライカーズ時代の仲間から、サッカーの練習にさそわれた。

雷児は、小学校卒業以来、六年ぶりに、ぶらっと訪れてみた。

あ那时的の自分たちと同じ小学校の校庭で、同じユニフォームを着た少年たちが、無心にボールを追いかけていた。目がキラキラしていた。

「走れ、もっと速く！」

雷児も、子どもたちに声をかけながら、ボールを追い、走った。

体の中を風がふきぬけて、気持ちよかった。

雷児は、この日からときどきサッカーの練習に顔を出すようになった。

そして少しずつ、もやがかかっていた未来がみえてきたような気がした。

（ぼくは、子どもたちと関わる仕事がしたいのかもしれない。小学校教育と、幼児教育の勉強をしてみよう）

雷児は決めた。さっそく小学校教諭の免許を取るために、大学の通信教育

を申しこみ、一方で保育系専門学校もさがしはじめた。

「保育園で働く男性は少ないから、学校をさがすのも大変かもよ」

と言いながら、母は、専門学校のカタログを山のように集めてきてくれた。

その予測は当たり。「男子学生は受け入れていません」という学校ばかり

りだった。でも、雷児はあきらめずに、かたっぱしから電話をかけた。

そして一五校目で、やっと男子も受験できる学校が見つかった。四〇人中、

男子は五人。雷児は、保育の専門学校の数少ない男子学生の一人になった。

男性には、0歳児は難しい？

雷児は、学校の授業で幼稚園や保育園に実習にいくうちに、だんだん「保育園」に興味を持つようになっていった。

（ここには、子どもたちの生活そのものがある。昼寝をしたり、おやつを食べたり、遊んだり、みんなで過ごす時間も長い。保育園の子どもたちを育てていきたい）

目の前に、※保育士への一本道がくつきりとうかびあがった。



雷児五歳ごろ。妹の舞衣さんと。このころから、四歳年下の舞衣さんや、幼いところたちの面倒をみるのが好きだった。

※保育士
保育の現場で働く女性は「保育母」、男性は「保父」と呼ばれていたが、一九九九年から「保育士」に統一された。



1 絵本を読んだり、手遊びをしたり、音楽に合わせて踊ったり。雷児も子どもたちと一しょになって楽しんでいるようだ。



ほいくえん
保育園では
たの
楽しいことがいっぱい！

かそう とうじょう
季節ごとのイベントでは、仮装で登場！



せつぶん
節分で



ハロウィンで



クリスマス会で

子どもたちに楽しんでもらおうと、雷児たち保育士も、張り切って仮装する。「相手を喜ばすためなら、少々手間がかかることでも、まったく苦にならないんです」と雷児。

（小学校教師よりも、保育士になりたい！）

と決めたのはいいけれど、就職は、学校さがしよりも大変だった。

「男性は、採用しておりません」

いったい、何度、同じ言葉を聞いただろう。

雷児は、もう、あともがないという気持ちで、※ポピンズの採用試験を受け、特に面接には気合をいれてのぞんだ。

「社会には、老若男女さまざまな人がいます。ですから、保育園にも男性がいるのが自然だと思います。私は、保育園で働きたいのです」

面接官は、雷児の言葉に深くうなずいた。ポピンズも、ちょうど保育の場に男性保育者の存在が必要だと考え始めていたのだ。

雷児は、見事ポピンズの「男性保育士第一号」として採用された。

両親は、雷児が夢を見つけ、一歩、ふみ出したことを喜んでくれた。

初めての職場は、「横浜市民病院 院内保育所」。

雷児は、あえて0歳児クラスの担当を希望した。それは、就職活動中、

※ポピンズ
正式名 称は「ポピンズコーポレーション」。認可保育所やインターナショナルプリスクール（英語で保育を行う幼稚園・保育園）などを運営している会社。保育士の育成のため、ノースランドカレッジ（イギリス）や、ハーバード大学、スタンフォード大学（ともにアメリカ）への保育留学制度を設けている。

※院内保育所
病院内にある保育施設のこと。病院で働く医師や看護師の子どもをあずかっている。入院中の子どもの兄弟姉妹が利用できることもある。

「男性には0歳児は難しい」と断られたことが何回もあったからだ。本当に難しいのだろうか。雷児は確かめたかった。

「ちよ、ちよっと、動かないで。お願い……」

赤ちゃんは、九か月。新米保育士は、まだ一か月。

雷児は赤ちゃんのおむつ替えに苦勞していた。ひたいに汗がにじむ。

赤ちゃんは少しもじっとしていてくれない。

先輩保育士のまゆみ先生が、笑いをこらえながら教えてくれた。

「力をぬいてごらんさい。歌をうたつてあげてみたらどうかしら」

雷児には、具体的なアドバイスの一つ一つがありがたかった。

食事をあげるのに一人にかりきりになってしまったり、ミルクを作ろう

とすると粉の粒が残ってしまったり。もう、大変。でも、哺乳びんを買って、

ミルク作りを家で練習したりして、雷児はこつこつとがんばった。

そして次第に、泣き声を聞いて、赤ちゃんが何をしてほしいのかが分かる

ようになってきた。

(だいじようぶ。男性だって、0歳児保育をやることができる)
雷児に、少し自信がついた。

保育士雷児を育ててくれたのは、子どもたち

次に受け持ったのは、二・三歳児クラス。

ある日、双子の男の子が入園してきた。たつちゃんとうちちゃん。なかなか園になじめない。特にたつちゃんは、園に来ると、忍者のようなすばやさで部屋から逃げだしてしまう。

その日もたつちゃんは、廊下のすみに座りこんで、雷児に背中を見せたまま、がんとして動かなかった。

雷児は近くにあったおもちゃ箱の中から、車を取り出した。

「たつちゃん、車で遊ぼう。ブーブー。出発しまーす！」

たつちゃんは、ふり向きもしない。背中が、「遊ばない」と拒否している。

雷児は、心の中でため息をついた。どうしようかと思ったとき、おもちゃ箱の中にビニールのやわらかいボールを見つけた。



初めての勤務先「横浜市市民病院
内保育所」の園児たちと。



二人の娘の父親であることは、
保育の大きな力になっている。
奥さんは0歳児クラスの先輩保育
士だったまゆみさん。



「ポピズナーサリー 早稲田」では、0歳から五歳までの子どもを、およそ七五名ほどあずかっている。



「保育の現場を知っている人が、もっと政治や行政に入ってほしいですね。そうじゃないと、子どもをとりまく環境は変わらないと懸うんです」雷児の瞳は、保育園からさらに先の、大きな世界を見つめているようだ。

（転がしてみようかな。どうかかな……）

雷児は、何も言わないで、ボールをたっちゃんに転がしてみた。

ころころころ。ボールが、たっちゃんのおしりにぶつかって止まった。

たっちゃんは、ちらっとボールを見ると、すぐにそっぽを向いてしまった。

「だめか……」と思ったとき、たっちゃんが、くるっと雷児のほうに向き

を変えて、ボールを転がしてきた！ 突然だった。

雷児は、とびあがるくらいうれしかった。

「すごい！ たっちゃん、うまいなあ！」

そしてまた、ボールをたっちゃんに転がした。たっちゃんもまた、雷児に転がしてきた。二人のころころキャッチボールは、しばらく続いた。

この日を境に、たっちゃんは、まず雷児と、そして友達とも、元気に遊べるようになった。

（あせつちやだめなんだ。子どもの気持ちに寄りそって、ゆっくり関わっていくことが大事なんだ。たっちゃん、教えてくれてありがとう）

そして保育士になって、一年半がたったころ、イギリスの※ノーランドカレ

※ノーランドカレッジ

イギリスの有名なナニー専門養成施設。ナニーとは、保護者に代わって子どもの保育や養育をするプロのベビシッターで、イギリスの伝統的な職業。幼児教育のスペシャリストだ。

ツジの保育士、幼稚園教諭の養成コースに一年間留学するチャンスが訪れた。授業で、毎週一日、決められたイギリス人家庭でベビーシッターをした。雷児はベビーシッターの初日に、お母さんから三歳のデイジーを幼稚園に迎えにいくように言われた。デイジーには、そのことは伝えてないという。

(そりゃ、まずいよ。日本人の男性が、いきなり迎えにいくなんて)

雷児の不安は当たった。デイジーは、雷児とは帰らないと泣き叫んだ。

片言英語で何を言っても無理。抱いて家まで足早に歩き始めると、デイジーが何やら大声で叫んでいる。まわりの人が、げげんそうな顔で雷児を見る。どうやら「人さらい」と叫んでいたようだ。

雷児は、すっかりデイジーにさらわれてしまった。そこで、雷児は毎回、手遊びや手作りおもちゃを準備して、ライジ・ミニキンダーガーデンを開いてみた。なんと、これが近所の子どもたちにも大人気!

一カ月後、デイジーもやつと笑顔を見せてくれるようになった。

(言葉が通じなくても、心で感じて、分かり合うことができるんだ)

雷児は、イギリスの子どもたちからも大事なことを教わった。

子どもたちの輝く未来のために

夏の昼下がりの保育室。お昼寝もおやつも終わって、のんびりとした時間。

一歳児クラスの子どもたちの目が、雷児に注がれている。

「絵本のはじまり、はじまり……」

大きくもなく、小さくもない、やわらかな声で雷児は読み始めた。

0歳児クラスで汗を流していた雷児も、今年で保育士一二年目。

最近、若い父親から「どうやって、息子と遊んだらいいのかわかるのか」「どんな絵本を読んだらいいのかわかるのか」など、相談を受けることが多くなった。

雷児は真剣に答える。父親と子どもとの架け橋になることは、男性保育士の大切な役割の一つであり、子どもへの幸せにつながると思うからだ。

父親が子育てに参加すると、母親も笑顔になる。笑顔と愛情につつまれて育つ子どもは、「夢」を持てる人になる——雷児は、心からそう思っている。

これからも、子どもたちの夢を応援していきたい。一つ一つの夢は、子ども一人一人のかがやく未来とつながっているのだから。



留学先でベビーシッターをしていたデイジー一家と。(写真一番手前の青い眼の女の子がデイジー) 子どもたちとすっかり仲良しに。

※キンダーガーデン
ドイツ語で「幼稚園」という意味。



雷児の呼びかけで結成された、男性保育士のフットサルチーム。男性保育士ならではの悩みや情報を交換する場になっている。

保育士になるには？

どんな職業？

子どもをあずかって成長をサポート

おもに小学校入学前の子どもをあずかって、生活の世話（保育）をする仕事。ただあずかるだけでなく、食事などの生活習慣を教えたり、言葉や運動の発達をサポートするなど、子どもの発育に大きく関わるので、責任も重大だ。

なり方のポイントは？

専門の教育機関に進学するのがベスト

必ず資格が必要な職業なので、厚生労働省が指定した保育関連の大学、短大、専門学校に進学するのがベスト。キチンと学んで卒業すれば、資格を取得できる。中には通信教育を実施している短大もある。

その他の資格のとり方は？

条件を満たせば資格試験の受験が可能

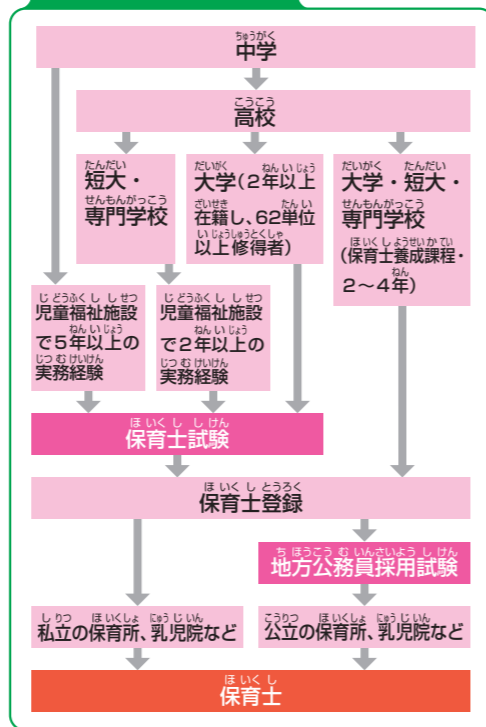
保険関連の学校に進学しなくても、各都道府県が実施する保育士試験に合格すれば資格を取得できる。ただし受験するには、大学に2年以上在籍し、62単位以上修得しているか、高校・短大卒で2年以上の保育の実務経験が必要だ。

どんな人が向いている？

世話好きでおおらかな人

赤ちゃんや子どもが大好きで、人の世話をするのが苦にならない人。子どものわがままやいたずらにおおらかに対応でき、忍耐力がある人。子どもといっしょになって遊べて、体力に自信がある人などが向いている。

なるにはチャート



こんな本を読んでみよう！



『たんぽぽ保育園カンタマン』
(集英社)

エリート教育の保育園に赴任した新米保育士・北條幹太。独自のやり方と元氣な笑顔で子どもたちの心をつかむ。



『ピッコロ』
(学研教育出版)

保育士や幼稚園の先生はもちろん、保育者をめざしている人のための、保育で使える製作やあそびが満載。

私流仕事のモットー

子どもの夢に共感したい。
言葉が届かなくても
心を通じ合いたい

子どもが好きな絵本から、子育ての現状まで、ほく自身が、いつもいろんなことに興味を持たなくてはと
思っています。そうでないと、子どもたちの多様な夢を本気でサポート
できませんから。



上司
から見た
七海雷児さん

感性豊かなアイディアマン

七海さんはアイディアマン。子どもたちのために、楽しい企画を次々に提案してくれます。残念ながら、ポツになることもあります。それでもへこたれないのは、七海さん自身が楽しいことが好きだからでしょうね。保育士には、相手がどう感じているかを想像し、理解できる感性が大切。七海さんは、保護者からも、話やすく、安心感があると信頼されています。年々、男性保育士が増えていきます。これからリーダーとして、雷児パワーを発揮してください。

株式会社ポピンズコーポレーション
じょうぶなとうかつ よしだけいこ
ルーム事業部統括 吉田敬子さん

七海雷児さんは こんな人

自己紹介

生年月日 1975年 5月31日

星座・血液型 双子座 O型

尊敬する人 父、母、祖父、祖母

趣味 サッカー、野球 するのも観戦も…

性格 おおらか、常に前向き

好きな本 (または映画) 源義経、インディ・ジョーンズ、E.T.

好きな場所 うみべ、自宅 家族で行くならどこでも